

全作物共通

気温の変動が大きく、平均気温は、1週目は平年並か高く、2週目は平年並か低い見込みです。降水量・日照時間はほぼ平年並の見込みです。

- ①ハウスは外気温が徐々に低下し、夜間の気温も下がってきます。適温を確保するとともに、換気をこまめに行い、過湿状態にならないように注意しましょう。
- ②強風や大雨に備えて、防風網の点検、ハウスの修理や補強、排水溝の掘り下げなど防災環境を整えましょう。
- ③栽培を終えたハウスは、作物残渣を搬出し、被覆資材を冬期間除去して、翌年の病害虫の発生を抑制しましょう。被覆資材を除去しない場合は、ハウス内にある雑草は除草し、栽培する作物等に害虫が寄生しないように管理しましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■ 【農場経営管理編】 —働き方改革—

●生産性が高く、かつ「人」に優しい環境作りのための、初めのステップ

1 働き方を見つめ直す

課題を洗い出し、書き出して見える化する。情報を集め、目標を作る。

2 働きやすい・やりがいがある職場作り

できることから改善・・・掃除をする、整理整頓するなど、簡単でかつ目に見えることから始める

作業を平準化する・・・雨の日でもできる作業のリスト化、複合化で作業量確保
就労条件の見直し・・・休みやすい環境作り、繁閑を生かした柔軟な就労体系
清潔で快適な職場環境・トイレの清掃を徹底、荷物が置けるロッカーの設置

土壌分析を実施しましょう

土作りの第一歩は土壌診断です。
3年に1度は土壌診断を行い、施肥設計に活かしましょう。

【土壌の採取方法】

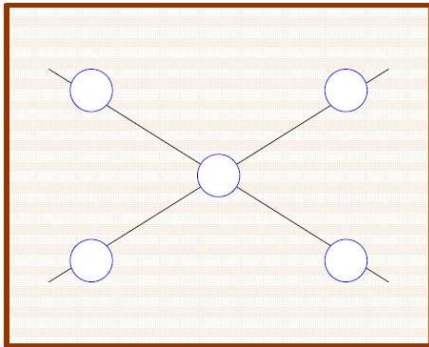


図1 土壌の採取位置

土壌の性質は、一筆のほ場の中でもかなりのばらつきがあります。

生育に差が見られない場合は、対角線に5か所以上を採取し、よく混ぜて一つの分析用の試料(500g程度)とします。(図1)

生育に差が見られる場合は、それぞれを同様に採土してください。

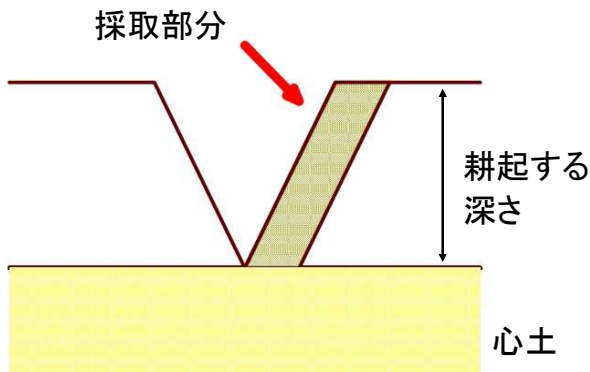


図2 土壌の採取深さ

このとき、表層部を薄く剥いだ後、耕起する深さまでV字型に掘り、その面に沿って一定の厚さで採土します。(図2)

● 印の場所から耕起する深さで採土してください。

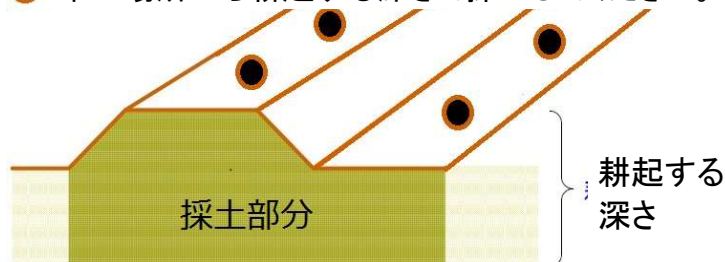


図3 うね立てしている場合の土壌の採取位置

野菜畑などでうね立てしてある場合は、隣のうねにかけて採土するか、うねとうね間を交互に採土します。(図3)

申し込み時期、分析料金などについては、農協等にお問い合わせください。